

SNAPSHOT

New window on the gamma-ray Universe

ガンマ線で見た宇宙

Nature Vol.454 (1038) / 28 August 2008

6月11日に、NASAのガンマ線広域天文衛星（GLAST）が打ち上げられた。その2週間後、主望遠鏡が稼動し始めた途端に、ブレーザー3C454.3から強烈なガンマ線が噴きつけてきた。この衛星の初期観測の成果としてこのほど発表された、全天ガンマ線宇宙図（右）の左下に写っているのが、それである。NASAのゴダード宇宙飛行センター（米国メリーランド州グリーンベルト）の

プロジェクトサイエンティストであるSteven Ritzは、「こうした天体が、我々を待ち構えているのです」という。

ブレーザーは、細い粒子ジェットを噴出している超大質量ブラックホールである。宇宙には、強いガンマ線を放射する天文現象が、このほかにもいろいろある。GLASTは、3時間ごとに全天を走査して、こうしたガンマ線現象を観測する。宇宙図の右端には、銀河面の上下にゲミングパルサー

と、かにパルサーも見えている。今回の宇宙図は、95時間分の観測データに基づいて作成された。NASAのかつてのコンプトンガンマ線観測衛星でこれだけの量のデータを集めようとしたら、1年はかかっただろう。NASAは宇宙図と同時に、GLASTの名称をフェルミガンマ線天文衛星に改称することも発表した。■

Eric Hand

